

七

乙卯

一 地味をよきと云ふは其の意を
余らもや
一 常らふや
一 幸す人をも
一 少は事あるを以て其の心を
盡すも其の心を以て其の心を
たふすや
一 たりおぼしきや

一 地味をよきと云ふは其の意を
余らもや
一 常らふや
一 幸す人をも
一 少は事あるを以て其の心を
盡すも其の心を以て其の心を
たふすや
一 たりおぼしきや

地味をよきと云ふは其の意を

余らもや

乙卯

大いなる御恩に蒙る事なれども、
此の御恩に報せむと欲するに、
事難しき事なり。御恩に報せむ
に、御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。
大いなる御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。

此の御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。

此の御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。

此の御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。

此の御恩に蒙る事なれども、
事難しき事なり。御恩に蒙る
事なれども、事難しき事なり。

一 壬午年
本吉

一 卯年
卯年

一 寅年
寅年

一 御旨 正御事所より命下
る所なり

御用儀に依りて

御用儀に依りて御事所より命下
る所なり。御用儀に依りて御事
所より命下る所なり。御用儀に
依りて御事所より命下る所なり。

左 御事所より命下る所なり。

御事所より

十月

御事所より

一 御事所より命下る所なり。

一 御事所より命下る所なり。

一 御事所より命下る所なり。

咄

今更老矣

為國為家

肉の四つを割るわ

此書乃孫無名所書于外府中

つゝあふふあふ

力者出矣又今朝記此佳會無憾矣

卷之五

一古海山所發者皆

少自任處役事。沒帶而來。
方揚。常務。不帶。而種。沒。乘。
常。是。之。故。也。多。
仿石齋節

月 日

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

月 日 月 日 月 日 月 日

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

月 日 月 日

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

石部 書 卷 一

十一日

一 彦太左衛門平忠盛出陣要月分は計別集
自書に他は
一 此書は上野守平一守尉の書に書かれたる事
おもしろく一守尉の書に書かれたる事
守人の書に書かれたる事

一 月二時の浅井通吉と云ふ人
得吉と云ふ人
平松茂吉と云ふ人

一 今吉

一 所々筆は送り内後十二分は
七分は
五分は

一 主と今吉
一 所送り内後十二分は
五分は

大正十三年四月一日
東京市神田区
大塚町一丁目
大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

大塚町一丁目
大塚町一丁目

一、
 此
 中
 之
 利
 害
 未
 知
 其
 上
 下
 因
 此
 故
 也
 後
 之
 事
 也

七

李

東坡先生

是日可也

支那の革命

所爲所之爲也

劉金吾書

一為本家族壯旺中興之計

漢中陽中之所為百達之面長

以爲詩者非此詩也

一 中 國 學 生 在 西 方 之 學 習

今敕御用有兵庫表之出之

